

<p>公益財団法人 8020 推進財団</p> <p>平成 24 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名： 30 歳代お口の健診</p>
<p>2. 申請者名：公益社団法人 東京都武蔵野市歯科医師会 会長 辰野隆</p>
<p>3. 実施組織：公益社団法人 東京都武蔵野市歯科医師会</p>
<p>4. 事業の概要：</p> <p>18 歳までは学校等で定期的に歯科健診を受診する機会があるが、それ以降から 40 歳位まで定期的な歯科健診を受ける機会が少ない。18 歳～40 歳の間、殊に 30 代となるとう蝕や歯周疾患になる確率が高くなり、自覚症状が少ないまま病状が進行する可能性が増す。そこで口、歯、歯肉の状態をチェックし、その結果をもとに、少しでも歯科健診を受診する足がかりになれば、歯科疾患や歯周疾患の早期発見・早期治療によって疾病の重篤化を防ぐことができ、健康で快適な市民生活に寄与することが目的である。</p>
<p>5. 事業の内容：</p> <p>モデル事業として 30、35 歳の武蔵野市民に限定して行う。対象者に受診券（チラシ）を郵送し、武蔵野市歯科医師会会員の健診受託医療機関の歯科医院に持参してもらうことで、歯科健診・歯周診査を受診できるシステムとなっている。まず問診票に記入してもらい、受診票の項目に沿って歯の状態、歯周組織の状態、唾液検査 2 種（サリバスター、RDテストを使用）の健診を行う。受診者には結果票を渡す。この受診をきっかけに疾病の早期発見・早期治療を促すことが可能になり、この年代の市民にも定期健診の重要性や口腔衛生環境の自己管理を啓発することができ、地域公衆衛生の向上に寄与している</p>
<p>6. 実施後の評価（今後の課題）：</p> <p>30 歳代は、歯科健診を受診する機会が少なく、企業での健診も減少している。 ましてや痛みや自覚症状がないと、なかなか歯科健診を受診しない。 かかりつけ歯科医を決めている割合は、男性 26.4%、女性 46.9%、全体 39.5%で少なかった。また、過去 1 年間に歯科医院等で歯石や歯の汚れを取り除いてもらった受診者は、男性 37.2%、女性 47.1%、全体 43.5%となり、1 年以内に歯科にかかっている者は半数に満たなかった。 また、歯間清掃器具（歯間ブラシ・糸ようじ・デンタルフロス）の使用状況は 56.0%が使用していなかった。 今回、2 種類の唾液検査を実施したが、受診者に視覚的にう蝕や歯周疾患に罹患していることを教示しやすかった。 唾液潜血反応試験では、男性 74.2%、女性 68.8%、全体 70.8%が (+) か (++) である。また、CPI コードの高い人ほど唾液潜血反応試験の結果も (+) 以上が割合が高い。 齶蝕活動性試験では、全体の 68.3%が LOW であった。 従って、30 代は自覚症状の低い歯周疾患に罹患している割合が齶蝕よりも高く、30 代の歯科健診で特に歯周疾患の早期発見・早期治療につながるということが重要であることがわかった。今後も年齢幅を拡大し、30 代健診が定着する道筋を作っていきたい。</p>